

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十二月度 入選句（投稿総数三千二百七句・小中学投句数二千五百七十二句）

### 特選

もみじちる川に流され旅します 大垣市 金森 大輝(小六)

秋の季語の中でも代表的な「もみじ」もみじを詠んだ俳句はたくさんありますが、散った後の紅葉が「川に流され旅します」というとらえ方がおもしろいです。「もみじ散る」というと「寂しい」「悲しい」と、とらえがちですが「川に流され旅します」ととらえれば、「この後、この紅葉はどこまでいくのだろう。そして、そこでどんなことに会おうのだろう」そんなことを想像出来る」ととって楽しいですね。

水そうの魚もねむる冬の朝 大垣市 三宅 葉月(小三)

作者は水そうでどんな魚を飼っているのでしょうか。金魚かな、メダカかな。春から夏にかけて、そして、秋になってもまだまだ元気に泳いでいた水そうの金魚でもメダカでも泳ぎ方もだんだん元気がなくなってきましたね。私も水槽で「ヒメダカ」を飼っていますのでその様子はよく分かります。「元気がないなあ。生きているのかな」と思うこともあります。その状態を作者は、「ねむる冬の朝」としたところがおもしろいです。私たちも寒い冬の朝はなかなか起きられないですからね。

しろいききなんだかみんなきしやみたい 大垣市 渡部 結良(小二)

季語は「しろい息」ですね。冬の寒い朝、外に出たとたん、自分の息も人の息も白くなりますね。その様子を「なんだかみんなきしやみたい」としたところがいいですね。「きしや」としたところから、集団登校の時の様子かなと思います。そんな寒い冬の朝を元氣よく歩いて登校している様子がよく浮かぶ句です。

### 秀逸

どんぐりがころがっていくうんどう会 大垣市 窪田 栞奈(小二)

どんぐりだころころおちておにごっこ 大垣市 石田 みおな(小二)

紅葉たち風になふかれておどってる 美濃加茂市 藤吉 彩愛(中二)

もみじの葉風がふくたびわかれ時 大垣市 後藤 爽花(小六)

かきの木がおもたそうだよしゆうかくだ 大垣市 後藤 優芽(小二)

ふゆのあさぼくのはくいきくもになる 大垣市 安藤 煌健(小二)

たのしそらいちようのはっぱダンスして 大垣市 しみず かな(小二)

じょうずだねおちばがひらりちゆうがえり 大垣市 たしろ ゆり(小二)

かれた蓮しずかになつた池を見る 大垣市 大関 綾華(小三)

風邪ひくな兄ちゃん二人受験生 大垣市 ふじい きゆう(小四)

入選

ふゆになるはつばがないよさびしいな 大垣市 早の はるま(小二)  
 おとうとのふくろにおちばいっばいだ 大垣市 田邊 葉奈(小二)  
 カマキリがおもちやのうえにのっている 大垣市 松田 佳歩(小二)  
 げんかんのまえでかまきりとおせんぼ 大垣市 山本 とらき(小二)  
 かかしさんいねをまもるよおさむらい 大垣市 ひびの はるく(小二)  
 ゆきだるまうごいていたらうれしいな 大垣市 おりと 大河(小二)  
 帰りみち家までトンボときようそうだ 美濃加茂市 山本 光我(中二)  
 紅葉たち山にくる人むかえてる 美濃加茂市 若原 徹也(中二)  
 おじいさん落ち葉ひろって町だすけ 大垣市 酒井 七海(小六)  
 冬の川鏡と なって木々うつす 大垣市 横田 絢愛(小六)

入選

もみじの葉散りたくないとしがみつく 大垣市 後藤 爽花(小六)  
 風の中もみじがえだにしがみつく 大垣市 小林 月菜(小六)  
 もみじ降るばしよ像にももみじふる 大垣市 相原 仁和貴(小六)  
 ランドセルまっかなもみじのってたよ 大垣市 中じま 大智(小二)  
 さむいあさはくいきまるでけむりだね 大垣市 きたむら れん(小二)  
 ゆきのたまバットでうってホームラン 大垣市 日比野 透真(小二)  
 さんたさんやさしいひかりがぼくのいえ 大垣市 松岡 暖大(小二)  
 ふゆのあさおかあさんの手ざらざらだ 大垣市 折戸 里桜奈(小二)  
 おいもほりかぞくみんなでどっこいしょ 大垣市 松川 明愛(小二)  
 雪だるまいっしょにすごそう一日を 大垣市 細谷 凜小三

選者吟

平成の年送るかに流れ星

祐子